

前回のライカーズ・アイランド刑務所の話を続ける前に、記憶に残る2つの事件について触れてみよう

アメリカセキュリティ視察ツアー第二弾!!

”あの事件“が起きてしまった今、二度と行く事が出来なくなった貴重な体験談を通じ、読者の皆様にセキュリティをチョッと違った視点から考えてもらいたい。「斬、耕平が斬る!」

その前に・・・

あの事件とは9・11の事だ。ワールドトレードセンター二棟に、ハイジャックされた航空機が激突すると言う戦慄の走る大事件だった。日本では深夜に生中継された。私は偶然テレビを付け、その映像に最初現実感が無く、まるで映画を見ているような感覚だったことを覚えている。テレビではまさにビルの中腹付近に大きな風穴が開き、黒煙を出しているところだった。

そしてけたたましいサイレンの音と、叫ぶ様に中継しているアナウンサーの声が大惨事を否が応でも視聴者に伝えた。まだその時は「航空機事故」だと思っていた。



1999年のワールドトレードセンター。

私は偶然テレビを付け、その映像に最初現実感が無く、まるで映画を見ているような感覚だったことを覚えている。テレビではまさにビルの中腹付近に大きな風穴が開き、黒煙を出しているところだった。

二機目が激突!・・・しかし、その直後、なんと二機目が突っ込んで来た。今度はその場面が生中継された。「一体何が起きたんだ!」思わず叫んでしまった。

私が今回の視察時にエンパイアステートビルに上り、その屋上から写したワールドトレードセンターを見ると、今でも涙が出そうになる。これ以上の解説は本題から離れるので止めようと思った



公園に佇むブロンズ像・・・このブロンズ像はグラランド・ゼロと、ウォールストリートとの間の公園に置かれている。

このテロ事件が起きた時、真っ先に駆けつけたのが「LADDER 4」で、残念ながらチーム全員が亡くなっている。オバマが大統領に就任し、初めてNYCを訪れた時、まず最初に訪問したのがNY消防署だった。



「LADDER 4」全員の名前が書かれたプレート。

彼は世界一のビジネス街ウォールストリートのビジネスマンを象徴し、テロ事件の前からこの公園で座っていた。そしてテロ事件が起きた時、周りが瓦礫の山と化したにも関わらず、彼は埃まみれで真っ白となりながら、そのままの姿で座っていた。私はその当時の彼の写真が載った資料を、VISITOR・CENTERで購入した。その姿に感動したからだ。



ポストンマラソンのフィニッシュライン。

テロの首謀者ビンラディンが、私と同じ歳とは嫌な縁だ。コラムを書いていると、ビンラディン暗殺までを映画化した「ゼロ・ダーク・サティ」を見逃しているのを思い出したので、今週末でもDVDを借りて観る事にしよう。

ええい、こうなったら横道にそれまっくっちゃえ!・・・ちなみにNYCの前にはポストンマラソンのフィニッシュラインの上で写真を撮った。

視察ツアーの時、通訳として同行してくれた、日本ガйдリアンエンジェルの代表、

コンクとの出会い・・・

コンクとはかんぬきの意味で、ものすごい怪力から付けられたニックネームである。二ヶ月前にカナダで行われた「アイアンマン大会」で、優勝したと言うのだから、その力は本物だ。なんとこのコンク、大の日本虫員で、2000年10月に



左からコンク、スナイパー、私、小田氏。

爆発事件! そして日曜に行われたボス



なかの こうへい 1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などでの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつづし、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広く伝えるべく活動を行っている。

小田氏もこの時一緒だった。「来週ポストンマラソンが行われるので、それまでにラインを奇麗に塗り直すんですよ」との説明を聞き、このラインが昨年のものだと理解した。まさかそのわずが一週間後、今度はこのフィニッシュライン上でテロ事件が起きるとは夢にも思わなかった。ポストンガーディアンエンジェルの連中とも食事をし、セキュリティについて語り合ったばかりと言うのに・・・

行われた、ガーディアンエンジェルス世界大会(決起集会のようなもの)が日本で行われた時にも来日しており、なんと私が打ち上げの最後にスピーチをした事を覚えていると言うのだ! さらに私も、「君はその時、凄いロン毛じゃなかったか?」と聞くと、「イエス!」とぶつたまっていた。私が壇上に上がったのだから、コンクが覚えていてもおかしくないが、数十人いた外国人のガーディアンメンバの中で、コンクを覚えていたのだから驚くのも無理からず。勿論小田さんもビックリ。自分でもビックリだが・・・

さて本題に入ろう・・・ けたたましいアラーム音が鳴り響き赤色灯がグルグルと回り始めた。 フランクに急かされ走らされた。そこは三方所の通路の中心のような広間だった。そして我々全員がそこに入った事を確認すると、フランクはスイッチを押した。すると各通路の上から鉄格子が降り、我々を隔離した。「小田さん、一体何が起きたのでしょうか?」 「警備員の持っている緊急連絡用アラームが鳴ったと言ってます」 「暴動でも起きたのでしょうか?」 「さあ、それはどうでしょう」 「申し訳ない!」本文をこれだけ書いただけで、紙面が尽きてしまった。次回に、斬らして、を持ち越させて頂こう。



記事に関するお問い合わせは A・P 総研まで Tel.03-3202-0971